

SDG s と税の関わり

沖縄県立八重山高等学校 一年 ^{わかすぎ}若杉 ^{にこり}仁瑚莉

みなさんは「SDG s」という言葉を耳にしたことがあるだろうか。おそらく、大半の人々が学校や身近なニュースで聞いたことがあるだろう。そもそも SDG s とは、二〇一五年に国連総会で採択された、持続可能な開発のための十七の目標である。私は、この SDG s にはさまざまな場面で「税」が関わってくるのではないかと考える。

まずは目標一番目の「貧困をなくそう」と国際協力に使用されている税金である。それを「経済協力費」という。この税金は国際社会の平和を願って、世界の人々のために支援することに使用されている。世界には今もなお、紛争が絶えず、飢餓や貧困で苦しんでいる人々が多く存在する。こうした人々の生活環境を改善するには、国際社会が協力して援助することが大切だ。そのために、日本などの経済が進んだ国々が発展途上国の経済援助に税金をまわし、発展へと歩むことが貧困をなくすための第一歩ではないだろうか。

次に、食品ロスと税の関わりについてだ。食品ロスについては主に目標十二番目の「つくる責任つかう責任」に関わってくるだろう。世界では、食べ残しや売れ残り、期限が近いなどのさまざまな理由でまだ食べられる商品が廃棄されている。そして、廃棄されている食料は一年で食糧生産量の三分の一に当たる約十三億トンに及ぶ量となっている。私は、実際に寮生活を通して、食べ残しが多いことを実感する日が多々あるが、それを積み重ねてしまうことでものすごい廃棄量になってしまうことに恐ろしさを感じた。しかし、問題はこれだけではない。みなさんは、廃棄された食料が「税金の浪費」につながっていることを知っていただろうか。家庭から出る食品ロスは、大半が生ゴミになり焼却される。その処理にかかる費用は、ゴミをだす住民の税金が使われているのだ。家庭での食材の廃棄はその購入費用が無駄になるだけでなく、納めた税金の無駄遣いにもなっていることがわかるだろう。仮に食品ロスを減らすことができるのなら、食べ物を無駄にしないという観点からだけでなく、税金を無駄にしないという観点からも見ることはできないかと私は考える。

SDG s と税の関係。調べてみると、やはり深く関係していることがわかった。私はまだ高校生で、納めている税金は消費税ぐらいだが、そのお金が世界のどこかで誰かの助けになっていたとするのなら経済協力費という税金の使い道はとても素晴らしいと思う。そして、限られた税金をどれだけ無駄に使わないかを考え、行動することも改めて大切だと感じることができたと思う。これからの社会で、税金が世界で活躍し、生活が豊かになっていくことを私は願う。